

GIO: 小児科診療の基本を身につけ、主な小児疾患について幅広く学び、小児科領域基本的な診療ができる。

SBOs:

- 1) 保護者と適切な人間関係を構築しながら、病歴の聴取が出来る。特に、小児科診療で特徴的な、患児の訴えを客観的に把握することや保護者の負担にならない家族歴の聴取などの重要性を学ぶ。
- 2) 新生児・小児の身体診察が出来る。小児の成長・発達が評価できる。
- 3) 乳児検診、学校検診など健康小児の一次評価ができる。
- 4) 検査値の評価について成人と小児の相違点を学ぶ。
- 5) 小児の採血、末梢静脈確保、胃チューブ挿入、導尿、浣腸、腰椎穿刺、骨髄穿刺などの手技ができる。
- 6) 検査および処置時の鎮静・鎮痛に関して、安全性を確保しながら適切な方法を選択できる。
- 7) 出生直後の新生児について、蘇生処置ができる。
- 8) 小児の輸液や抗菌剤・抗けいれん剤の使用について、基本的な知識を習得する。
- 9) 予防接種の適応・禁忌と重要性を理解する。
- 10) 小児救急において見逃してはならない尿路感染症、中耳炎、化膿性髄膜炎、腸重積その他のイレウス、虫垂炎、脳炎脳症、心筋炎、卵巣精巣の疾患などについてスクリーニングができる。
- 11) 新生児の呼吸障害、てんかん、喘息、小児白血病、先天性心疾患・川崎病、肥満・糖尿病、乳児黄疸など主要な小児疾患に関して理解し、基本的な症状コントロールが実施できる。
- 12) 小児患者の尊厳に配慮し、在宅治療の推進や死亡確認および遺族への対応が行える。
- 13) 上級医・指導医の指導監督のもとで病状説明ができる。

方略:

病棟で5人程度の患者を受け持ち、上級医・指導医の指導のもと受け持ち医として主体的に診療する。

- ・ 教授回診…週1回(水)。受け持ち患者に関してプレゼンテーションを行う。また、初診患者に関しては詳細にプレゼンテーションを行う。
- ・ 小児科・小児外科合同のモーニングカンファレンスで当直帯に外来受診または入院した患者について、広く学ぶ。
- ・ 小児科内レジデント回診、血液・悪性腫瘍チーム回診、循環器チーム回診、新生児チーム回診…週1～3回。
- ・ 血液・骨髄像カンファレンス、周産期カンファレンス、消化器カンファレンス、放射線カンファレンス、脳波カンファレンス、心電図カンファレンス、小児科症例検討会などに積極的に出席して、受け持ち患者のプレゼンテーションを行う。
- ・ 合同カンファレンス…週1回(木)。小児科、小児外科、放射線診断部、放射線腫瘍部、病理部による合同カンファレンスに参加し、受け持ち患者のプレゼンテーションを行う。
- ・ 抄読会…週1回(金)。ローテーション中1回発表する。
- ・ その他、地方会や勉強会に積極的に参加する。

評価:

- ・ EPOCによる評価を行う
- ・ 修了時に評価表(研修医の経験内容等に関する自己評価および小児科の指導体制等に関する評価を記載)を提出。評価表は小児科のスタッフ・シニア以上のレジデント、全てが共有する。
- ・ ローテーション中に養成コース長による面接評価を行う。